

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図り、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持ち行動する学校
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、生徒一人ひとりの希望を叶える進路を実現する
2 学校行事や部活動等を通して、生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う
3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携も進める
4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送り、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

2 中期的目標

1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と希望を叶える進路の実現
（1）希望の進路の実現に向け教員の指導力を向上するとともに、生徒が主体的に授業に取り組む教育活動を推進する
ア 「普通科」における教科横断の授業研究を進めるとともに観点別学習の視点からの授業改善を行い、生徒の学力の向上を図る
イ 授業における ICT の効果的な活用を進め、視覚化、情報活用による教育効果をさらに高めオンライン学習を併用する
※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（R3：86.1%、R4：83.4%、R5：88.0%）を令和8年度において90%にすることをめざす。
（2）3年間を通じて進路指導計画・課外講習の充実を図り、希望の進路を実現させる
ア 1年次から進路に合わせた授業や進学講習を実施し、早期の目標設定につなげる工夫をする
イ 進路決定まで、学年進行に合わせて多様な希望に応える個別の指導を幅広く展開する
ウ 大学等との連携や早期からの講習、自習室活用の拡充、粘り強い指導により難関大学への進学実績を向上させる
※ 国公立・難関私立大学の合格者数（R3：50人、R4：28人、R5：22人）を令和8年度には60人以上に、それに準じる有名私立大学合格者数（R3：72人、R4：94人、R5：84人）を令和8年度には100人以上にする
2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う
（1）「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」を通して生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育む
ア 体育的行事において生徒会部を中心に組織の企画・運営の力を育むとともに、リーダーとなる生徒を養成する
イ 文化的行事において生徒の「企画する力」、「協働する態度」、「責任感」を育む
ウ 「部活動」の活性化によって学校生活をより充実したものにし、その活動を通して公共心を育む
エ 「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」を完全実施するとともに、年間を通して生徒・教職員の負担軽減を図る
※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事」満足度（R3：90.9%、R4：91.2%、R5：95.5%）について、令和8年度まで95%以上を維持する。「部活動」満足度（R3：91.2%、R4：87.4%、R5：88.6%）を令和8年度までに90%以上にする。
3 「地域連携」を核に、地域に根ざした「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する
（1）支援学校との交流を促進し、インクルーシブ教育システムについて理解を深めるとともに「人権教育」につなげていく
ア 藤井寺支援学校との交流活動を充実させ、生徒及び教職員がインクルーシブ教育システムについて理解し活動に生かす
（2）「地域連携」を核に生徒が主体的に取り組む交流活動を拡充することによって、「地域とともにある、進学したい学校No.1」をより確かなものとする
ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・クリーンアップキャンペーン・地域の催しへの参加、地元小学校や他の教育機関との連携活動）の拡充を図り、地域と密着した、「チーム藤高（ふじたか）」を発展させる
イ PTA、同窓会の協力の下海外研修の継続・充実を図り、藤井寺市海外交流委員会と連携した短期留学生の受け入れ交流も充実させる
※ 生徒向け学校教育自己診断における「特色ある取り組み」に関する肯定度（R3：83.5%、R4：81.0%、R5：87.3%）を令和8年度において90%にし、「交流活動」に関する肯定度（R3：82.3%、R4：81.7%、R5：91.0%）を令和8年度において93%をめざす
（3）「藤高（ふじたか）」の良さを知り、実感できる広報活動を展開する
ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実を図り、情報発信を強化する
イ 「体験入学」、「学校説明会」について生徒が主体となった運営を継続し、「藤高（ふじたか）」の良さをわかりやすく伝えていく
※ 保護者向け学校教育自己診断における「教育情報伝達」に関する満足度（R3：87.0%、R4：89.7%、R5：87.1%）を令和8年度において90%、「HP・メール発信」に関する満足度（R3：89.2%、R4：84.8%、R5：85.8%）を令和8年度において90%をめざす
4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒・教職員の健康管理を推進する体制の充実
（1）生徒の規範意識の向上と保護者や関係機関との連携による教育相談体制の充実を図る
ア 「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために一人ひとりの生徒支援の充実を図る
イ 多数の生徒が利用している自転車のマナー向上と交通安全指導の徹底を図る
※ 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度（R3：74.1%、R4：69.0%、R5：75.5%）、保護者向け学校教育自己診断における「教育相談体制」に関する満足度（R3：76.2%、R4：79.7%、R5：77.7%）を令和8年度においてどちらも80%にする
（2）「入学してよかったと言える学校」を将来に渡って継続していくために、本校の将来展望を検討する
ア 「運営委員会」「総合学習推進委員会」「オンライン学習委員会」を中心に将来に向けた特色ある取組みを具体的に検討していく
イ 情報のデジタル化にともなう個人情報漏洩の危険性に対して、情報保護のための具体的な取組みを検討する
※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」の肯定度（R3：83.3%、R4：78.8%、R5：84.6%）を令和8年度において87%をめざし、「学校において個人情報を守られている」の肯定度（R3：88.6%、R4：89.7%、R5：92.1%）を令和8年度において95%をめざす
（3）大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化と防災教育の充実を図る
ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制を強化する
（4）学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化することによって生徒・教職員の健康管理体制を充実させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒向け】R5 比較で 20 項目中 18 項目において肯定率が上昇している 上昇率 3 ポイント以上の項目 ・独自の教材やプロジェクトなどを使用した工夫した授業（+3.4P） 授業アンケートによる評価アンケートでも同様の結果が出ている ・集会での話は分かりやすい（+4.2P） 本校の始業式、終業式はオンラインを基本としており、教室で着席し ての集会に対する評価と判断する ・部活が盛んである（+5.6P） ・生徒会活動は活発である（+5.0P） ・学校の施設・設備には満足している（+7.5P） エアコン（周年行事での設置も含めて）やトイレ改修への好評価 下降した項目 ・学校生活についての指導に納得できる（-2.8P） 生徒、保護者の理解促進に努めていく ・先生は生徒の意見をよく聞いていて、わからない点も質問できる（-2.2P） 教職員の生徒理解を促進する 【保護者向け】R5 比較で 20 項目中 18 項目において肯定率が上昇している 上昇率 5 ポイント以上の項目 ・子どもが悩みを相談できる体制ができている（+6.3P） 相談体制の強化に努めてきた結果である ・各行事において生徒会はよく活動している（+6.0P） ・学校の施設・設備には満足している（+5.0P） 上記 2 項目は生徒と同じ評価結果である 下降した項目 ・学校の HP やメールサービスを利用したことがある（-1.0P） ・この学校の PTA 活動に参加したことがある（-1.3P） 2 項目ともわずかな下降であるが、上昇するよう取り組みをすすめる	第 1 回学校運営協議会 令和 6 年 6 月 28 日（水） ・地域代表委員より 地域の掲示板にポスターなどを掲示することで学校の PR になるのでは →本校の学校説明会ポスター等の掲示をお願いしたい ・地域代表委員より 防災教育はしているか →避難訓練（年 2 回）、熱中症予防講習、救急救命講習を実施している ・地域小学校関係委員 自転車の傘さし運転が数名いて危険である →機会があるごとに指導しており、今後も継続的に行っていく ・地域中学校関係委員 府立学校はオールウェルカムが生徒数確保の道だろう →多様な生徒に対応できるように学校の体制を整えている オンラインでの授業配信も文科省の方針に沿って行っている 第 2 回学校運営協議会 令和 6 年 11 月 27 日（水） ・南河内の中学校の修学旅行は沖縄本島に行く学校があるため、藤井寺高校の行き先 が宮古島でよかった →中学校の修学旅行と行程が一緒にならないように気を付けていきたい ・万博関係で来年度は遠足のバスの手配が難しいと考えている →本校でも同じであり、工夫が必要 ・小学校へのボランティア活動は児童にも好評なので継続を希望する。 →本校の生徒にとっても効果があり、継続していきたい ・授業アンケート以外でも生徒が意見を伝えやすい関係づくりをしてほしい 高評価な授業が必ずしも良い授業とは限らないのでは？ →今後は自分たちで考えたり、調べたりする授業がさらに求められると考えている 第 3 回学校運営協議会 令和 7 年 2 月 19 日（水） ・学校評価において、自己評価が厳しいのではないか。数値的に目標に達していなくて もわずかであり、達成していると評価してはどうか →再度検討する ・説明のあったグラディエーション・ポリシーは、大学でも設定するようになった。今 後はこれに合わせたカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが中学生に 対するアピールとして重要になってくる ・PTA や同窓会への加入意思確認が必須となり、どれだけの非加入者が出るのか心配で ある。PTA としては組織や活動の必要性をしっかりと訴えていきたい →学校としても協力しながら活動をよくしていきたい ・探 Q の時間は子どもにとって楽しみになっているようだ。どんどんと深まっていく 調べ学習に魅了を感じていると話していた →探 Q 学習ではプレゼンテーション活動にも力を入れており、卒業生が大学生のプ レゼン大会で全国 2 位になったりするなど成果も出ている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 「普通科」校ならではの特色を生かした確かな学力の育成と、 希望を叶える進路の実現	(1) 進路希望の実現に向けた教員の指導力の向上と生徒が主体的に授業に取り組むための工夫 ア 「主体的に学ぶ力」の向上に向けた観点別評価視点からの授業改善促進 イ ICT 活用とオンライン授業による効果的教科指導の構築	(1) ア 「主体的に学ぶ力」の育成および事前学習となる「予習・復習」のために、学習支援クラウドサービスとグループウェア活用の拡大と充実を図るとともに、観点別学習評価の視点から授業改善に取り組み、教務部・オンライン委員会による効果検証を実施する。また、授業アンケート結果の活用によって更なる授業改善をすすめる イ プロジェクタやPC・タブレットを効果的に活用し、オンラインを併用した授業を展開することで、学力向上につなげる	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度[88.0%]を88.5%以上にする ・授業アンケートの肯定的評価(2回の平均)[90.0%]を91%以上にする ・教員向け学校教育自己診断における「授業改善」[100%]を維持する イ 生徒向け学校教育自己診断における「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」[92.8%]において93%以上にする	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断授業満足度89.0% (○) ・授業アンケートの肯定的評価(2回の平均)89.3% (○) *目標には届かなかったが、高評価を維持している ・教員向け学校教育自己診断「授業改善」100% (◎) *教科単位での「授業改善」も100%であった イ 生徒向け学校教育自己診断「教材やコンピュータ、プロジェクタなどで工夫された授業がある」95.0% (◎)
	(2) 3年間を見通した進路指導計画・課外講習の充実 ア 1年次からの少人数授業・進学講習の充実 イ 多様な進路への対応 ウ 大学との連携、自習室活用の拡充、粘り強い進路指導による進学実績向上	(2) ア 「総合的な探究の時間」等を通した1年次からの進路意識の定着とICT機器の活用、少人数授業や進学講習、大学との連携による進学に向けた講習の充実を図ることで、学習意欲を向上させるとともに、進路実現に向けた確かな手ごたえを感じさせることによって自信をもたせる イ 多様な進路に対応するため、情報収集、伝達を充実し、幅広い個別の指導を展開する ウ 日々の補習と集中講習「夢へのトライアル」、自習室の活用を促進し、高い目標を設定した粘り強い進路指導をする	(2) ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」[86.0%]を87%以上にする イ 生徒向け学校教育自己診断における「進路や職業について適切な指導を受けられる」[92.0%]において92.5%以上にする ウ 早期からの講習や自習室の活用、オンライン課題提供を促進することで、国公立・難関私立大学の合格者数[22人]を25人以上、それに準じる有名私立大学合格者数[84人]を90人以上にする	(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「少人数の授業や、関心のある選択授業がある」86.0% (○) *目標には届かなかったが高評価を維持している イ 生徒向け学校教育自己診断「進路や職業について適切な指導を受けられる」93.8% (◎) ウ 国公立・難関私立大学の合格者数23人、それに準じる有名私立大学合格者数90人 (○)
2 学校行事や部活動を通して生徒の主体性、創造性を育成するとともに公共心を養う	(1) 「学校行事」、「生徒会活動」、「部活動」通して、生徒が主体的に取り組む態度、自ら企画・運営する力を育成 ア 体育的行事における生徒会を中心とした生徒の企画・運営能力の育成と生徒リーダーの養成 イ 文化的行事における生徒の「企画力」、「協働的態度」、「責任感」の育成 ウ 「部活動」の活性化と、公共心の育成	(1) ア 体育的行事において、生徒会部と3年学年団の連携によって生徒のリーダー集団を育成するとともに、そのリーダー集団が企画から1、2年を巻き込んで組織運営できるよう指導する 生徒会を前面に出した活動を進める イ 文化的行事において、生徒会としての活動をアピールしながらクラス単位での企画・運営に取り組ませ、クラスの協力体制や責任感の大切さを理解させる ウ 生徒会、学年団中心に、新入生に向けた入部の促進を図り、加入率の向上を図るとともに、各活動を通して、ルールやマナーを順守する態度を育成していく	(1) アとイ ・生徒向け学校教育自己診断における「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」[95.5%]の数値を維持する ・生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発である」[83.9%]を84%以上にする ウ ・新入生の部活動加入率[75.0%]を75.5%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は部活動が盛んである」[88.6%]を90%以上にする	(1) アとイ ・生徒向け学校教育自己診断「フェス体・フェス文等の行事は楽しい」96.8% (◎) ・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」88.9% (◎) ウ ・新入生の部活動加入率73.8% (△) *4月以外にも体験入学の期間を設けることによって加入促進をすすめている ・生徒向け学校教育自己診断

	エ 「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」「学校休業日」の完全実施を図るための部活動の効率化	エ 「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」の完全実施に向けた部活動の効率化と「学校休業日」の周知徹底を図る	エ ・全てのクラブが、年間活動計画の作成や「ノークラブデー」の HP 掲載と完全実施をおこなう ・「全校一斉定時退庁日」における教職員の順守率〔65.1%〕を65.5%以上にする	「学校は部活動が盛んである」94.2%（◎） エ ・全てのクラブが、年間活動計画の作成、「ノークラブデー」の HP 掲載と完全実施に取り組んでいる（◎） ・「全校一斉定時退庁日」における教職員の順守率 66.5%（◎）
--	--	---	--	---

3 「地域連携」を核にして「地域とともにある学校」を進めるとともに、支援学校との交流、海外の学校や外部機関との連携を推進する	(1) 支援学校との連携を通じたインクルーシブ教育システムの理解と実践 ア 藤井寺支援学校との交流活動の拡充、インクルーシブ教育システムの構築の理解と実践	(1) ア 藤井寺支援学校との年間を通じた交流活動を充実させるとともに、オンラインを含めたインクルーシブ教育システムの構築について理解を深め、実践に生かすことによって年間を通じた「人権教育」につなげる 活動の内容についての広報にも努める	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」[93.5%]を94%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」[90.0%]を90.5%以上にする	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルール、人権について学ぶ機会がある」94.4% (○) ・保護者向け学校教育自己診断「学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」92.8% (◎)
	(2) 「地域連携」を核にした生徒の主体的交流活動の充実による「地域とともにある進学したい学校No. 1」の確立 ア 地域活動の拡充、地域と密着した「地域とともにある学校」の継続	(2) ア 地域活動（校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校との連携活動）の拡充を図り、藤井寺市立北小学校への「放課後学習支援」と「授業研究」の連携を通じて、児童・生徒、教員間の交流を促進する	(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「PTA や地域、近隣の学校(支援学校や小学校)との交流は活発である」[91.0%]を91.5%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「地域や近隣の学校(支援学校や小学校)との交流をしている」[93.2%]を93.5%以上にする	(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断「PTA や地域、近隣の学校(支援学校や小学校)との交流は活発である」93.2% (◎) ・保護者向け学校教育自己診断「地域や近隣の学校(支援学校や小学校)との交流をしている」94.2% (◎)
	イ 海外研修の継続・充実	イ オーストラリアへの海外研修の継続とオンラインによる交流システムの内容を充実させることによって、現地高校から日本への短期留学や本校での学校交流、ホームステイ受け入れなどのサポートに取り組む	イ 海外研修参加者によるアンケートにおいて肯定的評価[96.0%]を96.5%以上にする	イ 海外研修参加者によるアンケート肯定的評価100% (◎)
	(3) 「藤高(ふじたか)」の良さを知り、実感できる広報活動の充実 ア 学校ホームページ、藤高メルマガのさらなる充実 イ 生徒が主体の「体験入学」、「学校説明会」のさらなる充実	(3) ア ホームページの充実を図り、「求められる情報」を発信するための更新を継続する また、広く教育に関わる情報についても提供に努める イ 「体験入学」、「学校説明会」において、在校生が主体的に活躍することによって「藤高(ふじたか)」の良さをわかりやすく伝える	(3) ア イ ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」[87.1%]を、87.5%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある」[85.8%]を86%以上にする ・教員向け学校教育自己診断における「教育活動について必要な情報を生徒・保護者や地域への周知に努めている」[89.3%]を89.5%以上にする	(3) ア イ ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育情報について提供の努力をしている」89.4% (◎) ・保護者向け学校教育自己診断「学校のホームページやメールサービスを利用したことがある」84.8% (△) ＊欠席連絡における活用は定着してきた ・教員向け学校教育自己診断「教育活動について必要な情報を生徒・保護者や地域への周知に努めている」85.8% (△) ＊地域交流の中でも教育情報の周知をすすめていく

4 生徒が安全・安心な環境の中で学校生活を送るとともに、生徒、教職員の健康管理を推進する体制を充実させる	(1) 生徒の規範意識の向上と保護者、関係機関との連携による教育相談体制の充実 ア 生徒一人ひとりに対する支援の充実 イ 自転車マナーの向上と交通安全指導の徹底	(1) ア 本校の教育目標である「互いに違いを認め合い、ともに学びともに生きる」ことを育むために、「教育相談」体制の充実を図るとともに、各学年と部活動の連携や保護者との連携、情報提供に努め、生徒支援体制を強化する イ 生徒の 98%が自転車通学をしているため、地域や警察と連携した交通安全指導を図るとともに、雨天時の傘さし運転に対する注意喚起を徹底する	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「担任の先生以外にも相談することができる先生がいる」[75. 5%]を 76%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断における「子どもが悩みを相談できる体制ができている」[77. 7%]を 78%以上にする イ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活についての先生の指導は納得できる」[80. 2%]を 81%以上にする	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外にも相談することができる先生がいる」78. 2% (◎) ・保護者向け学校教育自己診断「子どもが悩みを相談できる体制ができている」84% (◎) イ 生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」77. 4% (△) ＊生徒指導においては生徒、保護者の理解を得られるよう努めていくとともに、価値観や生活スタイルの変化にも対応していく
	(2) 「入学してよかったと言える学校」の継続 ア「藤高」の将来に向けた特色ある取組みの検討 イ個人情報保護するための取り組みを検討	(2) ア 「入学してよかったと言える学校」であり続けるために、「運営委員会」「総合探究推進委員会」「オンラインライン学習委員会」を中心に学習、学校行事、部活動など学校生活全般についての検討を継続する イ デジタル機器の導入や情報のデジタル化にともなう個人情報漏洩の危険性に対して、情報保護のための具体的な対策を立案するとともにその実施を徹底する	(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断における「学校に行くのは楽しい」[84. 6%]を 85%以上にする ・生徒向け学校教育自己診断における「学校は特色ある取組みを行っている」[87. 3%]を 87. 5%以上にする イ ・生徒向け学校教育自己診断における「学校において個人情報は守られている」[92. 1%]を 92. 5%以上にする	(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのは楽しい」85. 2% (○) ・生徒向け学校教育自己診断「学校は特色ある取組みを行っている」89. 4% (◎) イ ・生徒向け学校教育自己診断「学校において個人情報は守られている」95. 1% (◎)
	(3) 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化および防災教育の充実 ア 大規模災害の発生に対応できる防災体制の強化	(3) ア 大規模災害に備え、藤井寺市危機管理室と連携するとともに、必要物資のさらなる調達を進めていく	(3) ア 本校、藤井寺市、地域 3 者合同会議を年 1 回開催する	(3) ア 本校、藤井寺市、地域 3 者合同会議 1 回開催 (○)
	(4) 生徒・教職員の健康管理体制の充実	(4) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化によって生徒の健康を守るとともに、「部活動方針」の遵守等により時間外勤を削減し、教職員の働き方改革を進める	(4) ・一人当たりの平均時間外在校時間を 3 %減少させる	(4) ・一人当たりの平均時間外在校時間 1 %増加 (△)